

芦安小学校学校関係者評価書（前期）

令和元年 8月30日（金）
学校関係者評価委員会作成

第1回 芦安地区学校関係者評価委員会

実施日：令和元年8月30日（金）午後6時～7時30分

会場：南アルプス市立芦安中学校多目的ホール

参加者：学校関係者評価委員

委員長 松本 賢司（芦安小中学校PTA会長，学校評議員）
副委員長 金田 康生（芦安小中学校PTA副会長，学校評議員）
委員 清水 准一（芦安ファンクラブ会長，学校評議員）
委員 清水 実（芦安子を守る会会長，学校評議員）
委員 深澤 米男（南アルプス市市議会議員，学校評議員）
委員 森本 浩人（芦安窓口サービスセンター長，学校評議員）
委員 森本 章雄（芦安地区学校応援団代表，学校評議員）
学校職員（小学校）校長 名取 昭彦，教頭 石川 和樹，教務主任 江頭 祐二
（中学校）校長 石原 敬彦，教頭 辻 純二，教務主任 窪田 昌彦

1. 学校側からの提案された内容

- ① グランドデザイン，学校経営方針について
- ② 学校評価の方法について
- ③ 芦安小学校前期学校評価の全体的な傾向について
- ④ 芦安小学校前期教職員自己評価・保護者アンケートの結果・児童アンケートの結果について
- ⑤ 今後の学校経営・運営について
- ⑥ 芦安中学校前期学校評価の全体的な傾向について
- ⑦ 芦安中学校前期教職員自己評価・保護者アンケートの結果・児童アンケートの結果について
- ⑧ 今後の学校経営・運営について

2. 協議された主な内容

- ① 芦安小学校の前期学校評価について
- ② 芦安中学校の前期学校評価について
- ③ 今後の芦安地区・芦安小中学校の教育のあり方について

3. 協議されたこと，質疑・意見

芦安小学校の教育について

・家庭での学習の時間確保が難しいという説明があったが，芦安放課後児童クラブでの過ごす時間がながいとあるが，児童クラブでは，どのようなことをしているのか。

→芦安小学校の児童の多くが，芦安ふれあい館にある芦安児童クラブで家族が迎えにくるまでの時間を過ごしている。そこでは，宿題等を行う時間が確保されているが，そこで宿題以外の学習を行うことができていない。今年から中学生のテスト期間は，小学生も家庭で学習により積極的に学習

する（あしやすチャレンジ）の取組を進めている。さらに、今後も、保護者の理解と協力を得て、家庭学習に主体的に取り組めるよう働きかけていく。

・学校は楽しいといっている児童が多いが、芦安小学校のいじめや不登校などの実態は、どうか。
→芦安小学校でも、欠席数が多い児童や友達同士のトラブルが全くないということは、言えない。しかし、小さなトラブルでも、担任を中心に、管理職を含め全教職員で、情報共有をしながら、その都度解決に努めている。

・スマホ・携帯を持っている児童が昔に比べて多いが、どのような使い方をしているのか。
→スマホ・携帯を持っている児童の多くは、ゲームや音楽を聴く、動画を見るなどの利用が多く、メールやSNS等で利用している児童はすくない。また、1年生でスマホを持っている児童が多く、児童の居場所が分かるようにGPS機能を使い、安全に配慮して親が持たせている場合が多い。スマホ等を持っている児童はバックやランドセルなどにスマホを入れていて学校では持ち出すことはない。

・保護者間の情報が学校からより早く伝わることもあるようだが、どういうことか。
→学校での出来事が担任等の連絡より、情報を知った保護者からスマホなどを通じて、短時間に多くの保護者に伝わることもある。正確な内容が伝わることもあれば、誤った情報も伝わることもあるので、学校や担任から正しい情報を正確に伝えて行く必要がある。

4. 分析・評価

- ・評価対象が明確にわかるように評価項目の文言を工夫したことは、評価の精度を高めることにつながった。また、小中学校のアンケートの分析を同じ形式にすることで、小中学校の比較がしやすくなった。学校評価は、評価結果を改善に結びつけていくものである。回答は、遠慮したり必要以上に厳しくしたりすることはなく、正直な気持ちで自己評価をしていくことが大事である。その上で、結果は真摯に受け止めて、学校運営の工夫・改善に活かしたい。
- ・人数が少ないので、結果の数値の増減にはあまりとらわれず、また、アンケート結果のみを「声」としてとらえるのではなく、保護者や児童の思いを多角的に受け取っていくことも大事である。また、事柄によっては、経年で変化を追いながら分析をすることも大事である。
- ・児童数も減っている。少人数指導に基づく基礎基本の定着や児童同士や教職員と児童の親密な関係など小規模校のメリットを外部へも周知していきたい。
- ・全体的には肯定的な評価結果が出ている中で、課題もある。危機管理マニュアルの理解や学校教育目標を意識して教育活動にあたることについては、教職員全体で積極的に特に取り組んでいく必要がある。
- ・「家庭学習」や「自主学習」の取り組みと家庭での「読書」について課題があることがわかった。「家庭学習のてびき」や取り組み表をきっかけに、家庭生活全般や自主的に学習することについて保護者にも考えてもらいながら、改善を図りたい。
- ・「芦安教育」「小中一貫教育」は保護者、地域の多くの方々に支えられている。他者との関わりやふれ合いは、児童に夢やあこがれを育むものである。これからも、学校教育目標を見据え、児童の実態を分析し、育みたい児童生徒に近づいているか、しっかりとした総括をする中で、芦安小学校を特色づけている「芦安郷育」「小中一貫教育」のさらなる推進を図っていく。